

(宛先)

NATS 連携中核市

西宮市長 石井 登志郎

尼崎市長 稲村 和美

豊中市市長 長内 繁樹

吹田市長 後藤 圭二

教育現場での実践的 SDGs アクションの提言

西宮市、尼崎市、豊中市、吹田市の隣接する4中核市は、170万人の人口を持つひとつの社会経済文化圏域を形成しており、多様な行政課題に対して圏域で一致して実行するからこそ実効性を持つ政策の実現に取り組んでいる。

4市は、持続可能な社会への変革につながる施策を一致して推進することを確認し、令和3年7月29日に「地球温暖化対策の自治体間連携に関する基本協定」を締結した。その具体的な取組として、教育現場をSDGsの実践の場とするためにも、脱プラスチック、食品ロスの削減及び環境教育の推進を図ることを目指すこととした。

全国で日々約1,000万人の児童生徒が学ぶ学校現場でのアクションは、大きな教育効果をもたらす。加えて民生部門において一定の実効性を持つ脱炭素社会実現施策として、その重要性に鑑み、文部科学省、農林水産省、経済産業省、環境省、大阪府、兵庫県、両府県教育委員会、両府県牛乳協会へ以下の提言を行うものである。

提言

1. 学校給食用牛乳について、付属するプラスチックストローが不要な製品の開発や、代替品に置き換える対策を講じること
2. 教育現場で食品ロス削減を進める上で、給食により発生する食品廃棄物のリサイクルを広域的に推進するとともに、自治体の取組を支援すること
3. SDGsの視点に立った環境学習、環境教育のさらなる推進を図ること

以上